

オレンジの木の下で ～ 消極的平和・積極的平和



オラン国とガルン国は、小さな川を挟んで隣同士。互いに温暖な気候を生かしてオレンジを栽培しながら、平和に暮らしていました。

ところがある日、オレンジ栽培に必要な水を、上流に住むガルン人がせき止めてしまいました。それに対しオラン人は激怒して、ガルン人と戦おうと盛り上がり、あの手この手を使って国中を戦いへ扇動していきます。



ガルン人

設問1：もしあなたがオラン人だったら、何をしますか？

自分の意見を書いてください。



オラン人

オラン国内では、ガルン国と強硬姿勢で戦争するかどうかを決めるための選挙が行われることになりました。ガルン人についての根も葉もない悪い噂が流され、選挙の結果多数決でガルン人と戦争することに決まりました。その後、軍隊が作られ、政府のやり方に対して異議を唱える者は逮捕されるようになりました。そしてついに両国は戦争へと突き進んでいきました。

設問2：戦争を避けるには、どうすればよかったと考えますか？

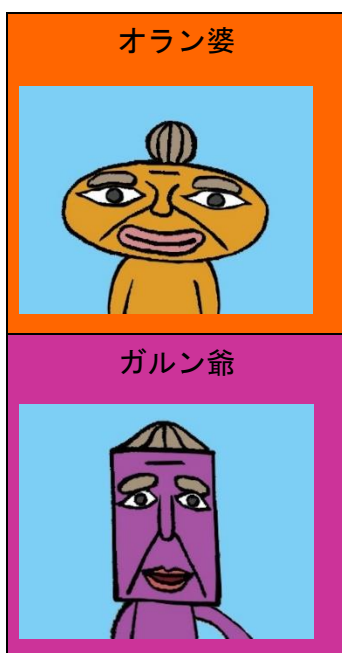
自分の意見を書いてください。

世界の戦争による犠牲者数は、例えば**第一次世界対戦で約 852 万 9000 人、第二次世界大戦で約 5565 万人**¹とも言われています。戦争を体験したことのないわたしたちには、その実際の悲惨さ恐ろしさはわからないかもしれませんが、少なくともこれだけの数の命を奪

¹ 人間科学研究所ホームページより（最終アクセス日 2020 年 4 月 16 日）
https://www.hns.gr.jp/sacred_place/material/reference/03.pdf

うものです。殺し合いをしたいと思う人は本来いないはずなのに、どうして人は戦争をしてしまうのでしょうか。

人が戦争（直接的暴力）に賛同するとき、その根底には特定のイデオロギー、考え方やこれを支持する国家への賛同などがあります。したがって、例えば自分たちの考え方が絶対に正しく、他よりも圧倒的に優れているという意識や風潮（文化的暴力）は戦争の一つの原因と言えるでしょう。また、これらの意識や風潮が蔓延することに無関心でいることも文化的暴力と言えるでしょう。さらに、こういった考え方を推進させるものとして、戦争を合理化する法律や軍隊の存在、そして差別や貧困といった社会環境があります（構造的暴力）。これらが互いに影響しあって、本来は誰も望まなかったはずの戦争、人と人の殺しあいという悲劇（直接的暴力）が起きてしまうのです。**このような事態が再び起きることを避けるために、わたしたちには何ができるでしょうか。**



対立を深める両国に、オラン婆とガルン爺が現れ、戦争をすること以外にも、平和的に問題を解決する方法があること、その方法をとることの大切さを説いてまわりました。その甲斐あって、両国は戦争をやめて（消極的平和）、話し合いをすることになりました。話し合いの結果、ガルン人とオラン人は協力して、ため池を作り、井戸を掘って共同で使うことに決めました。それからは、これまで戦争に使われていた分の国の予算が、人々の生活のために使われるようになりました。雨が降らない日でもオレンジはいつでも豊作、国も豊かになり、病院は増え、みんなが教育を受けられるようになりました。学校では平和について考える授業が行われ、平和の文化を育てるための映画が放映されました。報道の自由は守られ、多様な立場から見たニュースが流されるようになりました（積極的平和）。

- 1 消極的平和・・・直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力がない状態。
- 2 積極的平和・・・協力や平等、対話や平和の文化がある状態。直接的平和、構造的平和、文化的平和